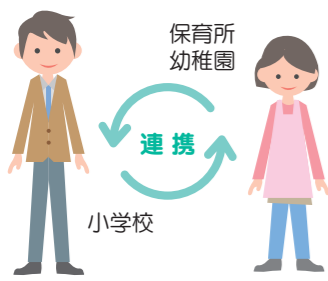


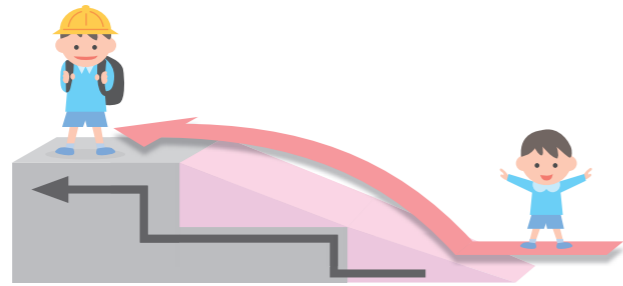
子どもが小学校への入学を迎える保護者の皆さんの中には、成長をうれしく感じると同時に、問題なく学校生活を送れるのかと不安を持っている人もいるかもしれません。確かに、小学校へ入学すると、それまでの「遊びや体験を通した学び」から「教科などの学習を通した学び」へと大きく環境が変化します。この突然の環境の変化に戸惑う子どもも少なくありません。

しかし、乳幼児期に培った「遊びの中の学び」が小学校以降の学びの土台となることから、その力が発揮できる「なめらかな段差」になるよう、小学校との連携を進めています。就学前の子どもと一年生との連携活動を通して、幼児は小学校への期待感を高め、一年生は自分の良さや成長を実感します。一年生が幼児を一方的に世話するのではなく、どちらにとっても学びや育ちのある連携活動を心掛けていきます。

そして、この活動を通して、関係する小学校と保育所・幼稚園の先生が、互いの保育・教育を理解することで、切れ目のない教育の充実を目指しています。



先生同士の相互理解



子どもの育ちや発達に合わせたなめらかな段差



▲小学生がはさみで切る様子を真剣に見る年長児



▲小学生と年長児が相談しながら作る



▲公開授業・保育に参加する多くの保育所・幼稚園・学校の先生 (中保育所・中舞鶴幼稚園・中舞鶴小学校の連携活動)



▲「保幼小接続カリキュラム」策定に向けて話し合われる

変わる乳幼児教育③

# なめらかに遊びと学びをつなぐ

保育所・幼稚園と小学校の連携

現場からの声



朝来幼稚園

子ども達が安心して小学校へ入学するためには、小学校との連携は欠かせません。これまで、小学校の授業を見たり生活料を通じた連携活動をしてきました。アサガオの種まきをしたときは、植え方や世話の仕方を一年生と一緒に学びました。連携活動の中で、年長児が体験したことを園で年中・年少児と一緒に楽しむ姿も見られました。

連携のおかげで、小学校への入学を心待ちにするようになり、入学後は充実した学校生活を送っているようです。

本園では、遊びを通じた学びを充実させ、多様な体験をすることで「生きていく力」をつける教育をしています。乳幼児期には小学校から始まる義務教育やその後に向けた基礎を培っていかねばなりません。スムーズに小学校に送り出すためにも積極的に小学校との連携を進めていきたいと考えています。

変わる乳幼児教育②

# 子どもの日常をのぞいてみよう

可視化「ドキュメンテーション」

保育所や幼稚園で、子ども達の姿や言葉を書いたものが壁に貼り出していることにお気付きの保護者もいらっしゃると思います。

そこには、遊びや活動の中で子ども達が「話したこと」「考えたこと」「発見したこと」「影響を受けたこと」「その活動がどのように展開したのか」などが、写真に加えて先生の解説付きで臨場感があるレイアウトで描かれています。このような可視化の表現方法を「ドキュメンテーション」と呼んでいます。

これを見れば、園での子ども達の姿や成長に気付くことができるだけでなく、子ども達が主体的に行動するよう働きかける保育者の意図などを知ることができ、これは家庭での子どもへの接し方の参考にもなります。

ドキュメンテーションは子ども達にも刺激になり、写真を見て、「やってみたい」「おもしろそう」という興味を引き出すツールにもなっています。

また、各保育所や幼稚園の保育者がドキュメンテーションを持ち寄って意見交換を行なうことで、乳幼児教育のさらなる質の向上を目指しています。



▲ドキュメンテーションの一例 (さくら保育園)



現場からの声



うみべのもり保育所

ドキュメンテーションを導入することによって、保育者が自分の保育を振り返り、良い所や改善点に気付けるようになりました。それによって、子ども達の行動の意味を考えたり、子どもの姿をよりよく見るようになってきました。そして遊びの発展や継続の重要性に気付く、保育や環境の見直しができ、担任同士の意識の共有が強化されたことも良かった点です。

また、子どもは自分の良さに気付く、自己肯定感が高まり、安心して生活するようになりました。さらに自分で考え試行錯誤する姿が多く見られるようになりました。

保護者には、保育所での子ども達の生活や育ち、それぞれの年齢の特徴などをお知らせするツールとなり、保育内容への理解が進んだことで、園の保育についてさらに協力していただけるようになりました。